

第30回

'19選抜女子駅伝
北九州大会

- 期 日 / 2019年1月20日 (日)
 - コース / 小倉北区・小倉城歴史の道—
八幡西区・長崎街道曲里の松並木前
折り返し 32.7km
- 一般の部 5 区間 高校の部 6 区間



一般の部でフィニッシュテープを切る天満屋の小原怜

一般の部

天満屋が6年ぶり6回目の制覇

全日本実業団女子駅伝2位の天満屋（岡山）が6年ぶり6回目の優勝を果たした。

3区の松下菜摘がTOTOをかわしてトップに立つと、その後は安定した走りで一般の部の首位を守った。アンカーの小原怜にタスキが渡った時には、高校の部の神村学園（鹿児島）に57秒先行されていたが、小原が逆に1分以上の差をつけてフィニッシュ、貫禄の走りだった。

2位はユニバーサルエンターテインメント（千葉）、3位には全日本を2連覇したパナソニック（神奈川）が入った。前回優勝のTOTOは6位に沈んだが、このレースで引退し、エチオピアに帰国するシュル・プロが2区で区間賞を獲得し、有終の美を飾った。

小原怜・天満屋5区「高校生には負けないぞと思って追いかけた」

武富豊・天満屋監督「高校生に負けるんじゃないか、やばいと感じていた」

高校の部

神村学園が圧巻の独走V

全国高校駅伝で初優勝した神村学園（鹿児島）が第14回大会以来、16年ぶり2回目の優勝を飾った。

1区の中須瑠菜はトップの須磨学園（兵庫）と20秒差の3位と若干出遅れたが、2区のバイレ・シンシアが一般の部の区間記録（18分11秒）を上回る18分7秒の衝撃的な区間新でトップに立ち、その後は独走した。

大会4連覇を狙った大阪薫英女学院（大阪）が2位、世羅（広島）が3位に入った。地元の北九州市立は3区・松本夢佳が実業団選手を含む3人抜き、4位に食い込んだ。

バイレ・シンシア・神村学園2区「ラストはめっちゃきつかったけれど自信はあった」

有川哲蔵・神村学園監督「良い材料になった。新しいスタートにできる」

安田功・大阪薫英女学院監督「2区でここまで悪い（8位）と思わなかったが、よく盛り返した」



高校の部で14年ぶりに優勝を果たした神村学園のアンカー・中尾友梨奈